

第Ⅲ章 地域別構想

2. 東部地域

2.1. 地域の概況と主要課題

1) 地域の概況

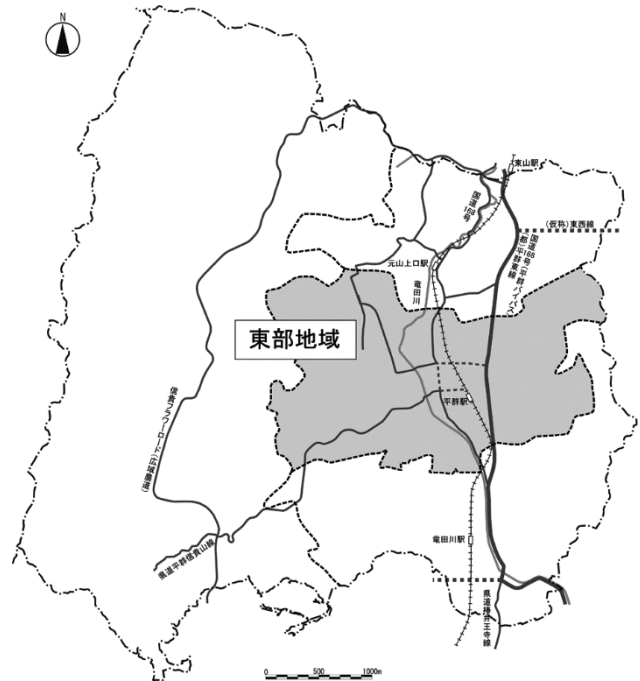
東部地域は本町の中東部に位置し、近鉄生駒線平群駅を有しています。

平群駅周辺では本町の中心市街地が形成され、町役場・中央公民館・中学校のほか、金融・商業施設など、都市的サービス機能が立地しています。また、地域の西側は生駒山、東側は矢田丘陵の緑地・田園地帯となっています。

4 地域の中では人口が最も多く、町全体の4割程度を占めていますが、平成7年以降減少傾向にあります。

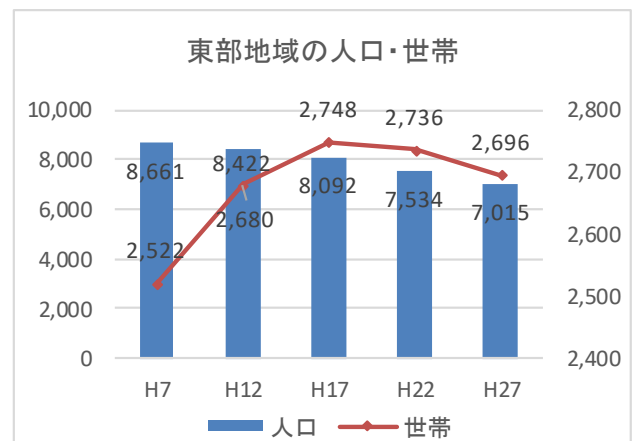
平群町の活性化を目的として平成18年度から開始された「平群駅周辺整備事業」が平成30年3月末を以て完了します。

国道168号平群バイパス沿道においては、近年、複数の商業施設が立地し、沿道利用の活性化が進みつつあります。



2) 地域の主要課題

- ・本町の中心に位置する平群駅周辺では、都市的サービス機能の充実や生活利便性の確保、魅力の向上を図り、拠点性の高い中心市街地を形成することが重要です。
- ・基盤整備が遅れている既成市街地等では、都市基盤施設の整備や防災性の高い市街地を形成し、安全・安心で快適な生活環境を確保することが重要です。
- ・豊かな自然や歴史的資源との共生を魅力として、その魅力の増進などにより定住や交流を促進することが重要です。



2.2. 地域の将来像

～活気と魅力のある拠点性の高い地域へ～

- 目標1 拠点性の高い中心市街地を形成する
- 目標2 安全・安心・快適な生活環境を確保する
- 目標3 自然・歴史資源を活かした定住・交流を促進する

2.3. 地域づくりの方針

目標1 拠点性の高い中心市街地を形成する

①平群駅周辺における中心拠点の形成

- ・平群駅周辺では、土地区画整理事業の完了を受け、宅地供給を促進するとともに、（仮称）平群町文化センター・図書館の整備を推進します。
- ・国道168号平群バイパス沿道のにぎわい拠点との役割分担を図りながら、地域密着型の生活サービスを提供する地域として、最寄り品等を中心とした日常購買施設や各種生活サービス、業務施設を誘導します。
- ・公共施設等の集積や利便性の高い立地特性や公共施設等の集積を活かし、子育て支援機能や福祉機能、行政サービス機能の充実によるシビックゾーンの形成を図ります。
- ・平群駅西地区において、宅地供給や都市機能誘導、公共施設等の機能充実を図りつつ、中長期的な視野のもと、駅東側における市街地のあり方についても検討します。
- ・平群駅周辺では、駅前広場や駐車場の整備、道路のバリアフリー化、鉄道・バス事業者との連携強化などにより公共交通の利便性向上を図ります。また、本町の玄関口にふさわしいシンボリックな景観形成等に努めます。
- ・生活利便性の向上による定住化を促進するため、近鉄生駒線の複線化及び運行本数の増加、接続性の改善、最終電車時刻の繰り下げ等を鉄道事業者に要請していきます。

②幹線道路沿道を活用したにぎわい拠点の形成

- ・平群駅から竜田川駅に至る国道168号平群バイパス沿道では、周辺の生活環境や景観に配慮した秩序ある土地利用を誘導しつつ、平群駅周辺の中心拠点との役割分担を図りながら、多様な買い物ニーズに対応した商業施設や交流機能など新たなニーズに対応した施設の立地を促進し、バイパス沿道の利便性を活かしたにぎわいの創出を図ります。

目標 2 安全・安心・快適な生活環境を確保する

①良質な住環境の形成と郊外型住宅団地の活性化

- ・既成市街地や集落地では、道路や下水道など生活に欠かせない都市基盤施設を確保するとともに、老朽建築物の建て替えや不燃化・耐震化を促進し、安全で快適な住宅地の形成を図ります。
- ・高齢化が一斉に進み、空き家や空き地の増加などの課題を抱える郊外型住宅団地では、柔軟な土地利用規制の運用を検討するとともに、新婚世帯定住への支援、空家等の利活用・流通促進などにより、多様な世代が居住する住宅地の形成を目指します。
- ・落ち着きと潤いのある住宅地景観を形成するため、町内緑化活動団体等による「花」を多用した道路景観形成を推進するなど地域ぐるみの美化、修景活動を促進します。
- ・丘陵地に位置する郊外型住宅団地では高齢化の進行が特に顕著であることから、路線バスやコミュニティバスの利便性向上を促進します。
- ・コミュニティの課題を地域特性に応じて解決する住民主体の取り組みを積極的に支援します。
- ・自主防災組織の育成・強化に努め、防災意識の啓発や防災知識の普及、消防訓練の実施などを積極的に推進します。

②都市施設及び生活環境施設の充実

- ・平群駅周辺では、（都）平群駅前線、（都）平群 1 号線及び駅前広場の整備を図り、駅へのアクセス道路としての機能強化と良好な沿道景観の形成を図ります。
- ・地域間における幹線道路の機能を強化するため、県道平群信貴山線の改良を促進します。
- ・日常交通の利便性と安全性を確保するため、地域特性を踏まえた町道整備計画を策定し、整備の緊急度や優先度の高い道路から順次改良を進めるとともに、歩行空間の確保やバリアフリー化を進め、安全で快適な道路網を形成します。
- ・平群中央公園及び総合スポーツセンターを「緑の拠点」として位置付け、住民のニーズに応じた機能強化を図るとともに、地域のシンボルとなる景観の創出、防災機能の強化を推進します。
- ・健康で文化的な生活環境を確保するため、吉新地区など公共下水道の整備を推進します。
- ・様々な社会・文化活動を支援するため、既存公共施設の適正な配置や維持管理、利活用の多様化を図ります。

目標3 自然・歴史資源を活かした定住・交流を促進する

①観光拠点の機能充実

- ・長屋王墓周辺、烏土塚古墳、(仮称)平群町文化センター・図書館を「観光拠点」として位置づけ、施設整備等による利便性・機能性を充実するとともに、交通アクセスなどの環境整備、地域のシンボルとなる景観の創出、積極的な情報発信等を図り、交流促進へと展開します。
- ・大都市近郊という立地特性を活かし、貸し農園、農業体験、農産物のブランド化及び特産物の開発など、基幹産業である農業を活かした都市との交流促進や地域活力の向上を図ります。

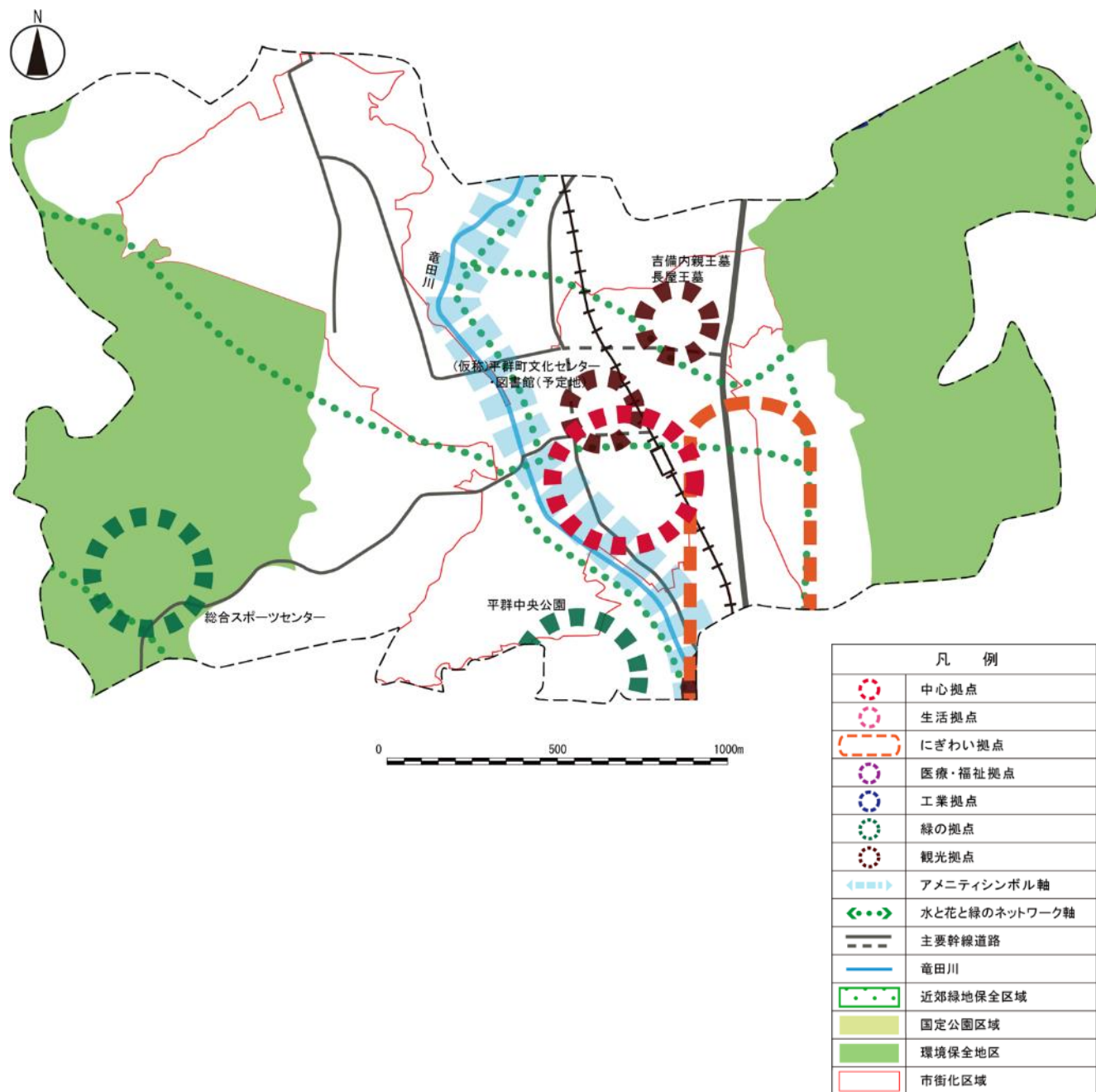
②自然環境の保全・活用

- ・矢田丘陵の豊かで良質な自然環境を各種法や条例に基づき保全するとともに、観光・レクリエーションや環境教育の場として活用を図ります。
- ・矢田丘陵における山地災害の発生を防止するため、災害危険箇所等における各種防災対策事業を積極的に推進するとともに、土砂災害危険箇所等における定期的な点検等を推進します。
- ・暮らしに身近な里山では農林業施策と連携しつつ、里山整備活動に対する支援策やまちづくりファンド等の創設など、地域住民や民間事業者との連携による積極的な維持管理を推進します。
- ・農地の荒廃化を防止し、地域の美しい田園景観の形成や農業の生産性確保等を図るため、優良農地の保全を図るとともに、遊休農地、休耕田等を活用して、観光資源となる農作物を栽培して地域農業が活性化するような方策を検討します。

③竜田川の歴史性を活かした歩行者ネットワークの形成

- ・自然や歴史の観点から価値の高い竜田川を「アメニティシンボル軸」として位置付け、住民団体と連携しながら、竜田川の歴史性に配慮した遊歩道の整備、河岸への植栽等による景観整備を図るとともに、地域ぐるみの河川一斉清掃等による水辺環境美化を促進します。
- ・自然環境と調和したハイキング道、歴史の散策道等の整備や近畿自然歩道等により、本町の魅力である豊かな自然や歴史文化、都市近郊農業、観光拠点などをつなぐ水と花と緑のネットワークを形成します。

■方針図



3.北部地域

3.1. 地域の概況と主要課題

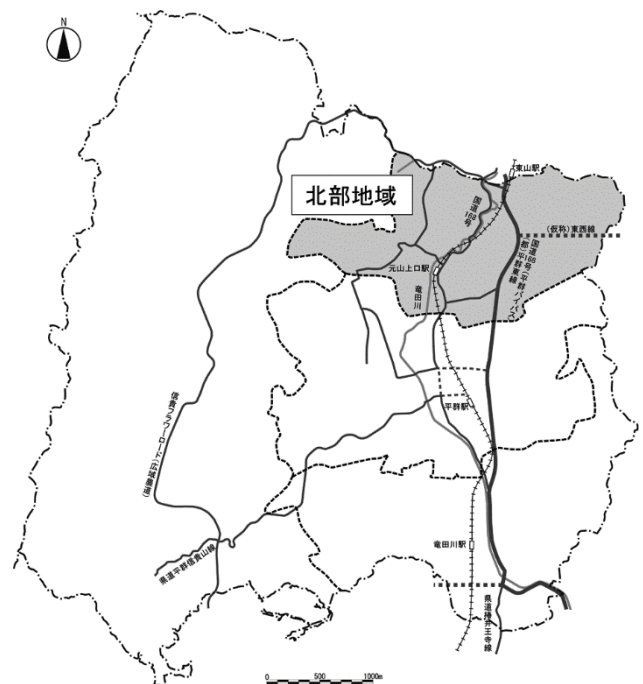
1) 地域の概況

北部地域は本町の北東部に位置し、近鉄生駒線東山・元山上口駅を有しています。

地域の東側は矢田丘陵の豊かな緑に恵まれ、元山上口駅より北側では溪谷の様相を見せ、南側には田園が広がっています。

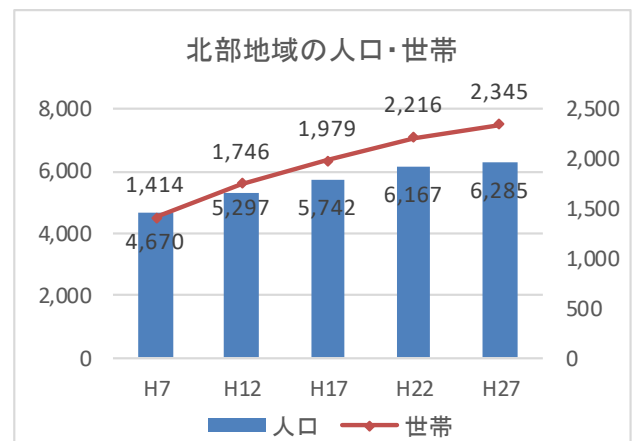
南北に通る国道 168 号平群バイパスが幹線道路軸となり、緑ヶ丘、椿台、菊美台、上庄台、月見台等の郊外型住宅地が開発され、町人口が減少しているなかで、唯一増加傾向にある地域です。

国道 168 号平群バイパス沿道の上庄地区では「無公害型企业」の誘致活動を進めており、バイパス西側では3社の進出が内定、バイパス東側では継続して誘致活動を進めています。



2) 地域の主要課題

- ・ 良好な住宅地環境が形成され定住人口の受け皿となっている北部地域では、良好な居住環境の維持・向上を図るとともに、副次的な生活拠点の形成や利便性の向上を図ることが重要です。
- ・ 転入者や一斉退職する団塊世代の雇用を確保するとともに、良質なストックである郊外型住宅団地を有効活用し、活力あるまちを創出することが重要です。
- ・ 本町の特性である豊かな水と緑を活用し、地域の魅力を高めていくことが重要です。



3.2. 地域の将来像

～利便性の高い活力ある地域へ～

- 目標1 利便性の高い生活環境を確保する
- 目標2 活力ある地域を創出する
- 目標3 水と緑を活かして魅力を高める

3.3. 地域づくりの方針

目標1 利便性の高い生活環境を確保する

①生活拠点の利便性向上

- ・本町の中で唯一人口が増加傾向にあり、多くの通勤・通学などに利用される東山駅周辺では、住宅・商業・業務・交通等の機能を充実し、活気とにぎわいのある中心拠点を補完する拠点の形成目指します。
- ・元山山口駅周辺では、日常購買施設等の立地を促進するとともに、交通利便性を向上するため、進入道路や歩行者・自転車空間の整備、駐車場や駐輪施設の確保を図ります。
- ・生活利便性の向上による定住化を促進するため、近鉄生駒線の複線化及び運行本数の増加、接続性の改善、最終電車時刻の繰り下げ等を鉄道事業者に要請していきます。

②良質な住環境の形成

- ・既成市街地や集落地では、道路や下水道など生活に欠かせない都市基盤施設を確保するとともに、老朽建築物の建て替えや不燃化・耐震化を促進し、安全で快適な住宅地の形成を図ります。
- ・緑豊かな街並みを形成するため、町内緑化活動団体等による「花」を多用した道路景観形成を推進するなど、地域ぐるみの修景・美化活動を促進します。
- ・コミュニティの課題を地域特性に応じて解決する住民主体の取り組みを積極的に支援します。
- ・自主防災組織の育成・強化に努め、防災意識の啓発や防災知識の普及、消防訓練の実施などを積極的に推進します。

③都市施設及び生活環境施設の充実

- ・広域的な交通条件の向上を図るため、(仮称)東西線の整備、国道168号の生駒市側(小平尾バイパス)の延伸、交通渋滞等の対策などについて、関係機関に早期実現を要望していきます。
- ・日常交通の利便性と安全性を確保するため、地域特性を踏まえた町道整備計画を策定し、整備の緊急度や優先度の高い道路から順次改良を進めるとともに、歩行空間の確保やバリアフリー化を進め、安全で快適な道路網を形成します。
- ・平群北公園を「緑の拠点」として位置付け、住民のニーズに応じた機能強化を図るとともに、地域のシンボルとなる景観の創出、防災機能の強化を推進します。
- ・健康で文化的な生活環境を確保するため、緑ヶ丘地区など公共下水道の整備を推進します。
- ・様々な社会・文化活動を支援するため、既存公共施設の適正な配置や維持管理、利活用の多様化を図ります。

目標2 活力ある地域を創出する

①工業拠点の形成

- ・転入者や一斉退職する団塊世代の雇用の場の確保、地域産業の育成などの観点から、国道168号平群バイパス沿道の上庄地区を「工業拠点」として位置付け、無公害型の企業の誘致に努めます。
- ・企業の誘致に際しては、地区計画制度の活用など各種土地利用手法を検討し、秩序ある良好な市街地環境の形成に努めます。

②郊外型住宅団地の活性化

- ・高齢化が一斉に進み、空き家や空き地の増加などの課題を抱える郊外型住宅団地では、柔軟な土地利用規制の運用を検討するとともに、新婚世帯定住への支援、空家等の利活用・流通促進などにより、多様な世代が居住する住宅地の形成を目指します。
- ・丘陵地に位置する郊外型住宅団地では高齢化の進行が特に顕著であることから、路線バスやコミュニティバスの利便性向上を促進します。
- ・郊外型住宅団地内の商業地では、周辺住民の利便性を確保するため、徒歩圏内における福祉・医療施設、日常購買施設等の立地を誘導します。

目標3 水と緑を活かして魅力を高める

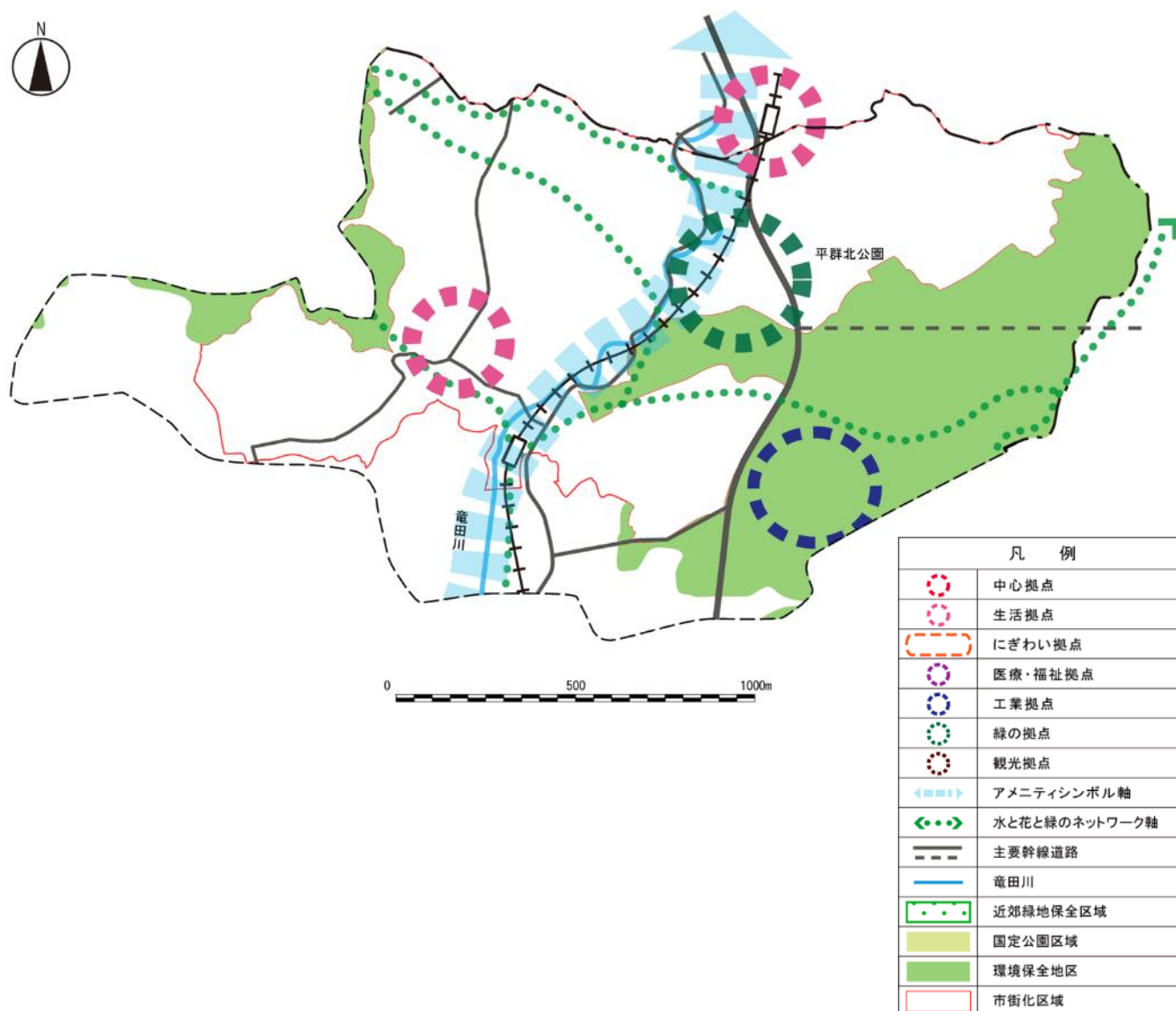
①自然環境の保全・活用

- ・矢田丘陵の豊かで良質な自然環境を各種法や条例に基づき保全するとともに、観光・レクリエーションや環境教育の場として活用を図ります。
- ・矢田丘陵における山地災害の発生を防止するため、災害危険箇所等における各種防災対策事業を積極的に推進するとともに、土砂災害危険箇所等における定期的な点検等を推進します。
- ・暮らしに身近な里山では農林業施策と連携しつつ、里山整備活動に対する支援策やまちづくりファンド等の創設など、地域住民や民間事業者との連携による積極的な維持管理を推進します。
- ・農地の荒廃化を防止し、地域の美しい田園景観の形成や農業の生産性確保等を図るため、優良農地の保全を図るとともに、遊休農地、休耕田等を活用して、観光資源となる農作物を栽培して地域農業が活性化するような方策を検討します。

②竜田川の歴史性を活かした歩行者ネットワークの形成

- ・自然や歴史の観点から価値の高い竜田川を「アメニティシンボル軸」として位置付け、住民団体と連携しながら、竜田川の歴史性に配慮した遊歩道の整備、河岸への植栽等による景観整備を図るとともに、地域ぐるみの河川一斉清掃等による水辺環境美化を促進します。
- ・自然環境と調和したハイキング道、歴史の散策道等の整備や近畿自然歩道等により、本町の魅力である豊かな自然や歴史文化、都市近郊農業、観光拠点などをつなぐ水と花と緑のネットワークを形成します。

■方針図



4.南部地域

4.1. 地域の概況と主要課題

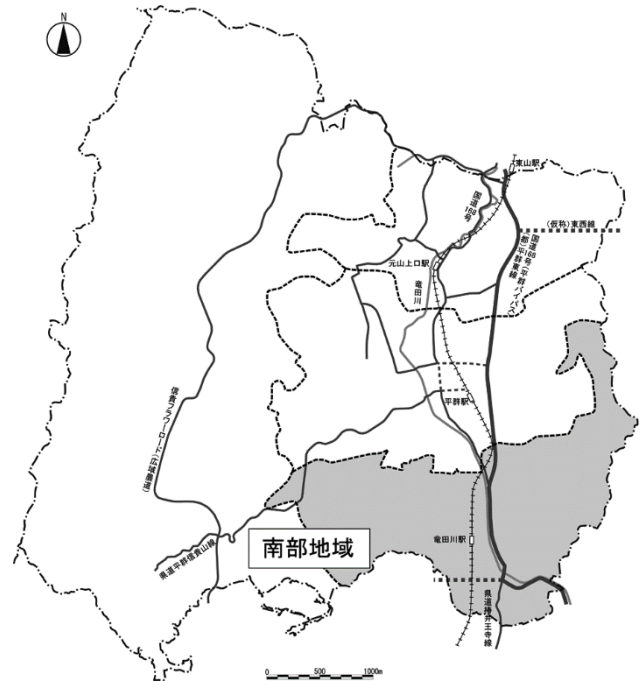
1) 地域の概況

南部地域は本町の南東部に位置し、近鉄生駒線竜田川駅を有しています。

地域のほぼ中央部を竜田川が南下し、西側は生駒山地、東側は矢田丘陵の豊かな緑に恵まれ、市街地・集落地の周辺には田畑が広がっています。

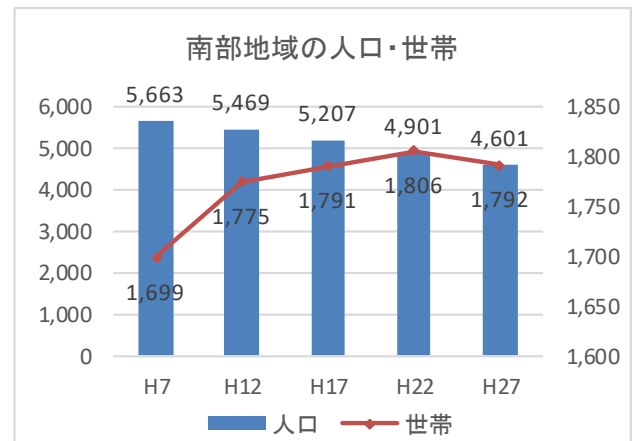
竜田川に沿って、広域幹線道路である国道168号平群バイパスが通り、若井、春日丘、北信貴ヶ丘、竜田川等の郊外型住宅団地の一斉入居が落ち着いた昭和60年以降、人口は減少傾向が続いています。

国道168号平群バイパス沿道においては、近年、道の駅「大和路へぐり くまがしステーション」や福祉施設、こども園など多様な施設が立地し、沿道利用の活性化が進みつつあります。



2) 地域の主要課題

- ・地域の活力が低下しつつある南部地域では、国道168号平群バイパスの沿道利用の活性化や地域産業の育成、生活利便性の向上などにより、にぎわいのある地域を形成することが重要です。
- ・豊かな自然環境や歴史・文化的資源を保全・活用し、道の駅「大和路へぐり くまがしステーション」を核として、交流機能を充実していくことが重要です。
- ・高齢化の進展が喫緊の課題となる本地域では、良質な居住環境の維持・向上を図るとともに、医療や福祉など、課題を見据えた暮らしにやさしい生活環境を整えることが重要です。



4.2. 地域の将来像

～にぎわいとやさしさのある交流豊かな地域へ～

目標1 地域のにぎわいを創出する

目標2 交流の発信拠点として機能を充実する

目標3 暮らしにやさしい生活環境を整える

4.3. 地域づくりの方針

目標1 地域のにぎわいを創出する

①地域活力の創造

- ・地域産業の育成の観点から、西宮地区周辺を「工業拠点」として位置付け、土地利用の柔軟な対応も含め、既存工場等を中心とした工業施設の集積を図ります。
- ・平群駅から竜田川駅に至る国道168号平群バイパス沿道では、周辺の生活環境や景観に配慮した秩序ある土地利用を誘導しつつ、平群駅周辺の中心拠点との役割分担を図りながら、多様な買い物ニーズに対応した商業施設や交流機能など新たなニーズに対応した施設の立地を促進し、バイパス沿道の利便性を活かしたにぎわいの創出を図ります。
- ・若井地区（開発許容区域）では、地域住民の意向等を踏まえつつ、コミュニティの維持や地域産業の育成などの観点から必要とされる住宅地等の立地を許容します。

②生活拠点の利便性向上

- ・竜田川駅周辺では、日常購買施設等の立地を促進するとともに、交通利便性を向上するため、駅前広場や進入道路の整備、歩行者・自転車空間の整備、駐車場や駐輪施設の確保を図ります。
- ・生活利便性の向上による定住化を促進するため、近鉄生駒線の複線化及び運行本数の増加、接続性の改善、最終電車時刻の繰り下げ等を鉄道事業者に要請していきます。

目標２ 交流の発信拠点として機能を充実する

①観光拠点の機能充実

- ・烏土塚古墳、椿井城跡周辺、道の駅「大和路へぐり くまがしステーション」を「観光拠点」として位置づけ、施設整備等による利便性・機能性を充実するとともに、交通アクセスなどの環境整備、地域のシンボルとなる景観の創出、積極的な情報発信等を図り、交流促進へと展開します。
- ・大都市近郊という立地特性を活かし、貸し農園、農業体験、農産物のブランド化及び特産物の開発など、基幹産業である農業を活かした都市との交流促進や地域活力の向上を図ります。

②自然環境の保全・活用

- ・矢田丘陵の豊かで良質な自然環境を各種法や条例に基づき保全するとともに、観光・レクリエーションや環境教育の場として活用を図ります。
- ・矢田丘陵における山地災害の発生を防止するため、災害危険箇所等における各種防災対策事業を積極的に推進するとともに、土砂災害危険箇所等における定期的な点検等を推進します。
- ・暮らしに身近な里山では農林業施策と連携しつつ、里山整備活動に対する支援策やまちづくりファンド等の創設など、地域住民や民間事業者との連携による積極的な維持管理を推進します。
- ・農地の荒廃化を防止し、地域の美しい田園景観の形成や農業の生産性確保等を図るため、優良農地の保全を図るとともに、遊休農地、休耕田等を活用して、観光資源となる農作物を栽培して地域農業が活性化するような方策を検討します。

③竜田川の歴史性を活かした歩行者ネットワークの形成

- ・自然や歴史の観点から価値の高い竜田川を「アメニティシンボル軸」として位置付け、住民団体と連携しながら、竜田川の歴史性に配慮した遊歩道の整備、河岸への植栽等による景観整備、既存公園の有効活用と機能向上を図るとともに、地域ぐるみの河川一斉清掃等による水辺環境美化を促進します。
- ・自然環境と調和したハイキング道、歴史の散策道等の整備や近畿自然歩道等により、本町の魅力である豊かな自然や歴史文化、都市近郊農業、観光拠点などをつなぐ水と花と緑のネットワークを形成します。

目標3 暮らしにやさしい生活環境を整える

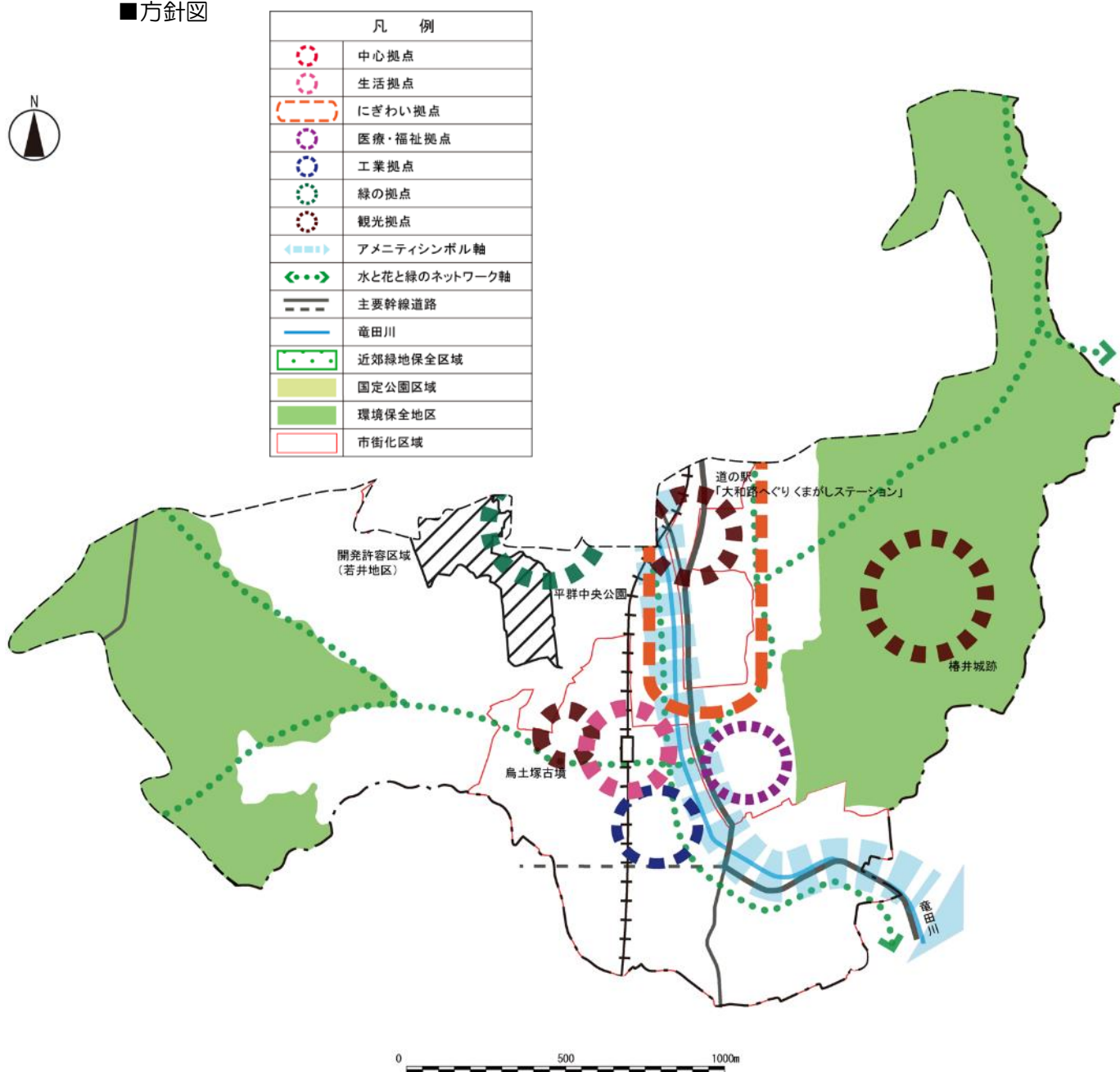
①良質な住環境の形成と郊外型住宅団地の活性化

- ・既成市街地や集落地では、道路や下水道など生活に欠かせない都市基盤施設を確保するとともに、老朽建築物の建て替えや不燃化・耐震化を促進し、安全で快適な住宅地の形成を図ります。
- ・高齢化が一斉に進み、空き家や空き地の増加などの課題を抱える郊外型住宅団地では、柔軟な土地利用規制の運用を検討するとともに、新婚世帯定住への支援、空き家等の利活用・流通促進などにより、多様な世代が居住する住宅地の形成を目指します。
- ・落ち着きと潤いのある住宅地景観を形成するため、町内緑化活動団体等による「花」を多用した道路景観形成を推進するなど地域ぐるみの美化、修景活動を促進します。
- ・丘陵地に位置する郊外型住宅団地では高齢化の進行が特に顕著であることから、路線バスやコミュニティバスの利便性向上を促進します。
- ・コミュニティの課題を地域特性に応じて解決する住民主体の取り組みを積極的に支援します。
- ・自主防災組織の育成・強化に努め、防災意識の啓発や防災知識の普及、消防訓練の実施などを積極的に推進します。

②暮らしにやさしい生活環境の形成

- ・広域的な交通条件の向上を図るため、(仮称)信貴山麓線(三郷町方面)の整備、県道椿井王寺線の改良、国道168号線の椿井交差点付近の改良による交通渋滞等の対策などについて、関係機関に早期実現を要望していきます。
- ・日常交通の利便性と安全性を確保するため、地域特性を踏まえた町道整備計画を策定し、整備の緊急度や優先度の高い道路から順次改良を進めるとともに、歩行空間の確保やバリアフリー化を進め、安全で快適な道路網を形成します。
- ・健康で文化的な生活環境を確保するため、若井・椿井・北信貴ヶ丘地区など公共下水道の整備を推進します。
- ・様々な社会・文化活動を支援するため、既存公共施設の適正な配置や維持管理、利活用の多様化を図ります。

■方針図



5.西部地域

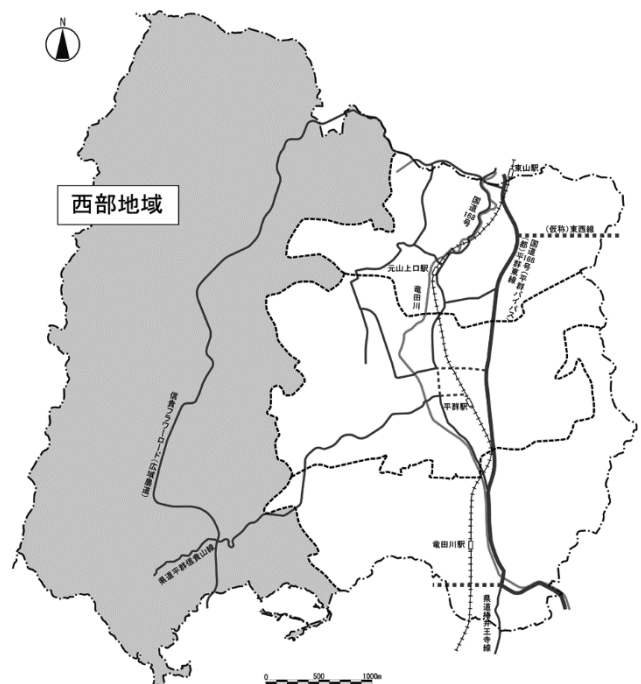
5.1. 地域の概況と主要課題

1) 地域の概況

生駒山地中腹に位置する西部地域は、地域の大部分を自然的土地利用が占めています。

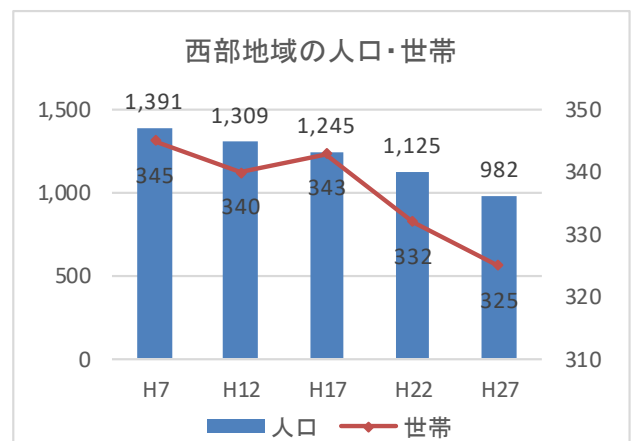
ほぼ中央に信貴フラワーロード（広域農道）が通り、地域の西側は金剛生駒紀泉国定公園が指定され、東側では、花卉園芸など本町の基幹産業である農業が営まれ、平群の魅力があふれる地域を形成しています。

人口は本町の1割にも満たず、人口の減少が最も著しくなっています。



2) 地域の主要課題

- ・本町の魅力の維持・向上と持続的可能な都市環境を形成するため、生駒山地の豊かな自然環境を保全・活用することが重要です。
- ・本町の活力を高めるため、農業の振興を図るとともに、豊かな自然や歴史・文化資源、基幹産業である農業を活かした観光産業を育成することが重要です。
- ・人口減少が著しい西部地域では、暮らしに必要な生活環境を整備していくことが重要です。



5.2. 地域の将来像

～平群の魅力があふれる地域へ～

- 目標 1 豊かな自然環境を保全する
- 目標 2 平群らしさを活かした産業振興を図る
- 目標 3 集落環境を整える

5.3. 地域づくりの方針

目標 1 豊かな自然環境を保全する

①自然環境の保全・活用

- ・生駒山地の豊かで良質な自然環境を各種法や条例に基づき保全するとともに、観光・レクリエーションや環境教育の場として活用を図ります。
- ・生駒山地における山地災害の発生を防止するため、災害危険箇所等における各種防災対策事業を積極的に推進するとともに、土砂災害危険箇所等における定期的な点検等を推進します。
- ・暮らしに身近な里山では農林業施策と連携しつつ、里山整備活動に対する支援策やまちづくりファンド等の創設など、地域住民や民間事業者との連携による積極的な維持管理を推進します。
- ・農地の荒廃化を防止し、地域の美しい田園景観の形成や農業の生産性確保等を図るため、優良農地の保全を図るとともに、遊休農地、休耕田等を活用して、観光資源となる農作物を栽培して地域農業が活性化するような方策を検討します。

②水と緑を活かした歩行者ネットワークの形成

- ・自然環境と調和したハイキング道、歴史の散策道等の整備や近畿自然歩道等により、本町の魅力である豊かな自然や歴史文化、都市近郊農業、観光拠点などをつなぐ水と花と緑のネットワークを形成します。

目標 2 平群らしさを活かした産業振興を図る

①基幹産業である農業の新たな展開

- ・大都市近郊という立地特性を活かし、貸し農園、農業体験、農産物のブランド化及び特産物の開発など、基幹産業である農業を活かした都市との交流促進や地域活力の向上を図ります。

②自然や歴史・文化資源を活かした観光産業の振興

- ・信貴山周辺（信貴山城跡・信貴山朝護孫子寺）、千光寺を「観光拠点」として位置づけ、施設整備等による利便性・機能性を充実するとともに、交通アクセスなどの環境整備、地域のシンボルとなる景観の創出、積極的な情報発信等を図り、交流促進へと展開します。
- ・信貴フラワーロード（広域農道）沿線の久安寺及び櫛原の周辺地区を「観光交流ゾーン」として位置付け、農産物直売所（ファーマーズマーケット）の整備、里山の自然や農地を活用した参加・体験学習等が図られる新緑性のある自然型レクリエーション機能の導入など、観光交流機能の充実を図ります。

目標３ 集落地環境を整える

①暮らしに必要な生活環境の整備

- ・集落地では、道路や下水道など生活に欠かせない都市基盤施設を確保するとともに、老朽建築物の建て替えや不燃化・耐震化を促進し、安全で快適な住宅地の形成を図ります。
- ・コミュニティの課題を地域特性に応じて解決する住民主体の取り組みを積極的に支援します。
- ・自主防災組織の育成・強化に努め、防災意識の啓発や防災知識の普及、消防訓練の実施などを積極的に推進します。
- ・地域間における幹線道路の機能を強化するため、県道平群信貴山線の改良を促進します。
- ・広域的な交通条件の向上を図るため、信貴フラワーロード（広域農道）の生駒市側の延伸について検討します。
- ・日常交通の利便性と安全性を確保するため、地域特性を踏まえた町道整備計画を策定し、整備の緊急度や優先度の高い道路から順次改良を進めるとともに、歩行空間の確保やバリアフリー化を進め、安全で快適な道路網を形成します。
- ・健康で文化的な生活環境を確保するため、信貴山地区など公共下水道の整備を推進します。
- ・様々な社会・文化活動を支援するため、既存公共施設の適正な配置や維持管理、利活用の多様化を図ります。

■方針図

